

ひかり

2025年3月号



St. Luke

日本聖公会 三光教会

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nsskk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

第731号

「…『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。』その石の上に落ちる者はだれでも打ち砕かれ、その石がだれかの上に落ちれば、その人は押しつぶされてしまう。」
(ルカによる福音書 20:17~18)

父と子と聖霊なる

全能の神の恵み

主教 ガブリエル五十嵐正司

聖餐式の最後に、司式者が皆さんを祝福する言葉を今日のタイトルにしました。この祝福の言葉を私が初めてメリーランド教区を訪ね出席した聖餐式で、新たな装いをして唱えられた言葉を聴いたとき、驚きとともに感動したことを思い出します。米国聖公会の祈禱書の祝祷は「the Father, the Son, the Holy Spirit」となっており、直訳すると「父と息子と聖霊」となります。その聖餐式は女性の聖職たちの集まりに招かれた際に行なわれた聖餐式でした。そこでの祝福は「天地の造り主である神、贖い主である神、支え主である神」との祝祷でした。

天地を創造し、神に似せて人を造り、被造物すべてを極めて良かったと祝福した神；過ちと罪の中にいる人を、神の子イエスは十字架につけられて贖い、再び、歩み出せるようにして祝福して送り出してくださる神；今、ここで私

たちを見つめ、寄り添い、祝福し続けてくださっている神。

毎朝の私の祈りは、この父と子と聖霊の神をゆくりと、思い巡らすことから始めています。時には、もう一つの聖句を読み、神のお心を思い巡らします。出エジプト記 34章 6節に記されている長い神の名前です。「主、主、憐み深く、恵みに満ちた神。怒るに遅く、慈しみとまことに富み、幾千代にわたって慈しみを守り、過ちと背きと罪を赦す方。しかし、罰せずにおくことは決してなく、父の罪を子や孫に、さらに三代、四代までも問う方。」この言葉を唱えながら、それぞれの言葉をゆくりと思ひ巡らしているうちに心が満たされてきます。名前は本質を表わしていると思えられてい

撮影され、公開された画像です。二つの銀河が衝突して、何十億もの星が現在、造り出されている姿です。その姿は、いずれは私たちが属する天の川銀河と最も近いアンドロメダ銀河の衝突の姿を予告している、と言われています。銀河そのものも変化し続けており、いずれ太陽も燃え尽き、太陽系も地球も消滅します。神によって造られたものは、変化し続け、私も消滅する存在です。しかし、その私たちにイエスは言われます。

「天地は滅びるが、私の言葉は決して滅びない」。詩編 90 編 9 節にも、同じような言葉が記されています。「私たちは吐息のように年月を終える。私たちのよわいは70年。健やかであつても80年。誇れるものは労苦と災い。瞬く間に時は過ぎ去り、私たちは飛び去る。」そのような存在であつても、私たちは肉体が滅びた後に、霊の体に復活して、天使のようになり、神は私たちに寄り添い続けてくださる。イエスの約束「私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」との言葉から心に平安を与えられます。

私は聖書に一枚の画像を挟んでいます。それは2006年10月19日にハッブル宇宙望遠鏡によって

3月・4月の予定

◆3月

大斎節第2主日

16日(日)

主教パトリック

17日(月)

主教教会博士エルサレムのシリル

18日(火)

聖ヨセフ日

19日(水)

第146回定期教区会

20日(木)

主教トマス・クラフマー

21日(金)

大斎節第3主日

23日(日)

聖マリヤへのみ告げの日

25日(火)

大斎節第4主日

30日(日)

◆4月

主教リチャード

3日(木)

大斎節第5主日

6日(日)

4月逝去者記念礼拝

7日(月)

アメリカ大陸の殉教者

8日(火)

復活前主日

13日(日)

復活前月曜日

14日(月)

復活前火曜日

15日(火)

復活前水曜日

16日(水)

復活前木曜日

17日(木)

聖金曜日(受苦日)

18日(金)

聖土曜日(イースター・ヴィ
ジル)

19日(土)

復活日

20日(日)

復活後月曜日

21日(月)

復活後火曜日

22日(火)

復活後水曜日

23日(水)

殉教者ジョージ

24日(木)

復活後金曜日

25日(金)

復活後土曜日

26日(土)

4月18日まで毎週金曜日12時から

十字架の道行

司祭按手に与かって

司祭 ウィリアムズ藤田 誠

主の平和がありますように

2025年1月13日、聖アンデレ主
教座聖堂にて司祭按手の恵みに与
かりました。これまで、たくさん
の方々にお祈り頂きました。主と
みなさまに感謝します。

聖職者の働きは一個人の努力
だけでは成り立たなく、教会のみ
なさまのお祈りを主が聞き入れて
聖霊の風を聖職者へ吹かせること
によって、その聖職者は隣人の苦
悩に寄り添い、苦悩する方々のた
めに祈れる者へと変えられるのだ
と、わたし自身の体験を通して感
じるところです。

司祭の働きとは何か?このこ
とを教えられたような出来事がつ
い先日(2月8日)、起こりました。
わたしは母(77歳)が心筋梗
塞で突然、天に召されたことを通
してです。母は兄が勤めるヤマト
運輸の宅配受付センターで週に
3回のパートタイムへ出かけて
いました。2月8日もいつもの
ように出かける準備をしていたの
ですが、少し、調子がよくないと

感じたからでしょう。受付センタ
ーまでも車で送ってくれる兄
に「少し、待っててくれる?」と言
ってリビングで休んでいたよう
です。兄は別の部屋で待機してい
ましたが、なかなか、母からの声
がなかったため、母の様子を確
認しようと母のいるリビングに行
きました。すると母は仰向けで倒
れていました。兄がすぐに救急車
を呼び、埼玉病院へ搬送されまし
たが、病院で逝去が確認されまし
た。わたしは兄から電話で母の意
識がなく救急車で搬送中という知
らせを受けてすぐに連れ合いと病
院へ行ったのですが、病院到着の
ときには母は逝去していました。

突然のことで兄も連れ合いもわた
しも動揺しましたが、一緒に祈
書にある逝去直後の祈りをおささ
げしました。母の顔が安らかに見
えたのが、せめてもの救いでした。

母はクリスチャンではありません
でした。子どもはミッショ
ン校へ通ってもらえたらという気
持ちはあったようです。そして、
わたしが母の所へ顔を出すと、食
事の前には「主の祈り」をわたしと
唱えることもしばしばあったので、
葬儀は斎場でお祈り(告別の祈り)

を持っておささげすることになり
ました。

葬儀当日までたくさんの方々
が母をおぼえて、また、わたし
が家族への癒しを祈ってください
ました。しかし、わたしの心はな
かなか落ち着かず、しばしば、
涙を流しました。この状態で母を
見送れるのか正直、心配でした。

そして、迎えた葬儀当日(2月
13日)の早朝、目白聖公会の敷地
内にあるシュロの葉が大きな風で
ゆれていました。その様子を目に
したとき、わたしは、主が「母の
ことは、わたしに任せなさい。あ
なたは自分の務めを果たしなさい
」と声をかけてくれたような感
じがしました。ゆれていたわた
しの心は落ち着き、斎場で辛そう
な表情の兄、涙を流す姉と妻と姪
たちを祈りを持ってみ守りつつ、母
のことを覚えて祈り、見送ること
ができました。

葬儀当日まで、母と家族のこ
とを覚えてお祈りくださった方々
がたくさんいらっしゃいました。
主がみなさんの祈りを聞き入れて
くださり、主がわたしに聖霊の風
を吹きかけて、斎場でわたしの
足元をしつかりと支えてくれた
のださったように感じられました。

司祭に召されて最初の葬儀が母の葬儀だったのですが、母の逝去を通して、司祭の働きの一部を主がわたしに教えてくださったのだと思います。

葬儀を終えて斎場を後にしたとき、青空の下、風はまだあちらこちらで吹き抜けていました。連れ合いが「お母さんが飛んで行っただよに感じる」とわたしに言いました。わたしもそのように思いました。母が身体のしほりから解かれて自由に飛んでいるのかなと感じました。聖餐式の感謝聖別のところで「…天の全会衆とともに、主の尊いみ名をあがめ、常に主をたたえて歌います」と唱えるところがあります。わたしたちは目で見えている会衆だけではなく、すでに天に召された方々も礼拝に参加していることをあらためて覚えていたいと思います。



(高橋教区主教と)

☆ ☆
先月掲載しました12月の会計報告ですが、最終報告版でなかったため、次月掲載させていただきます。

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ
礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。

- 礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
- わからない点は隣の席の者か案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■主日礼拝

午前 7:30 聖餐式
午前 10:00 ステパノ会
(日曜学校)礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝

■平日礼拝

毎朝 6:30 から
月、水、金は朝の礼拝、
火、木、土は聖餐式